

■最近のファナ地域



図1 カンマブグー村南部の里山の変化（2013年3月（上）、2022年1月（下））

各村の耕作地の拡大が進む。また、幹線道路沿いの分譲地は耕作地や養殖池（天水・地下水利用）などへの開発が進む。以前は幹線道路沿いだけだった土地の分譲が、枝道にまで拡大している。そのため灌木林がますます減少し、村人が日々利用する薪炭を得るにも苦労している。

■新実践者と先輩実践者

これまで自身の里山の再生に取り組んできた「実践者」は20名ほど。実践者のように自身で苗木を育てて利用できる人を彼らの周辺の村にも増やしていこうと、昨年隣村などから「新実践者」を迎え入れて里山再生に取り組んでいます。

新実践者の候補者として、雨期の始まる前後（4～5月）にサヘル森が苗木を提供し、乾期植栽をして、その後の彼ら管理の状況を見ます。そして12月に、候補者の中から特に管理がきちんとしていた候補者を「新実践者」として選んで、苗畑を設置して翌年の植栽に備えます（図2）。

これら新実践者の選抜に関しては、極力近隣の先輩実践者に同行してもらい、意見や情報をもったり、候補者と作業を共にしながら、里山再生で培ってきた知識や技術を共有してもらったりしています。また、高い技術を持つ地域苗畑主や先輩実践者のもとを訪れ、苗畑主や実践者の成果を目の当たりにして里山再生の将来像をイメージし、技術や経験を共有してもらっています。

こうした新実践者と先輩実践者の緩やかなつながりをいろいろな場所で作っていき、地域の里山再生の核として残り続け、将来の地域全体へ広がっていくことを期待しています。



先輩実践者が同行し、作業をしながら技術を共有



先輩実践者の植林地を訪れる新実践者候補者たち

2～5月

候補者選抜

過年度実践者と同村や隣村で、以前から見出していたり、実践者の知人であったり、木を育てることに意欲のある村人を調査・選抜する。



実践者

4～9月

植栽

選抜した候補者の里山にサヘル森が供与した苗木を植える。その際、実践者が同行し、作業の助力と助言を行う。



実践者

9月

交流

地域苗畑主や過年度実践者のもとを訪れ、知識と技術の交流を行う。



地域苗畑主

実践者

12月

選抜・苗畑設置

植えた樹木の管理、里山の環境などを考慮し、新実践者5名を選抜。会が金網を供与して苗畑を設置。



実践者

図2 新実践者選抜の流れ

■新実践者 2021

2021 年は候補者 10 名の中から、マリ人スタッフによって 5 名の新実践者が選ばれました。彼らは木を育てることに大変興味を持っており、実際にきちんと木を管理して育てています。

自分で苗木を生産できるようになって、休耕畑にユーカリをたくさん植えました。余った苗木は、欲しい人に販売しています。



①ブラマ・ジャラさん(カソマブグー村)

彼の苗畑は、本数も種類も実践者の中で随一だ。



村の先輩のバルーさんにはいろいろ教わっています。



②マバ・クリバリさん(ウルフィエナ村)

昨年の雨期の始まる乾期の終わりにユーカリを植えました。



1年で高さ 4m 以上に生長し、とても驚いています。



みなさんのおかげでいろいろな木の苗が作れるようになりました。



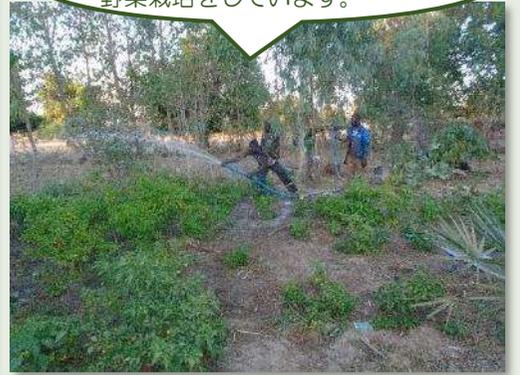
③マドゥ・クマレさん(ジリマスギ村)

金網を支援してもらい、こんなに立派な苗畑ができました。

4haの休耕畑にユーカリを植林しました。苗は自分で育てました。



乾期には井戸の水で灌水して野菜栽培をしています。



柵の内側にユーカリを植えています。

④ラサナ・ジャラさん(バフレブグー村)

昨年の10月にユーカリを植えましたが、8か月でこんなに大きくなりました。

トロという在種を畑に残し守っています。木が少なくなる中、こうした木も貴重です。



⑤カオ・ジャッコさん(アルファブグー村)

父の護る保護林の中に木を植えました。

隣村の実践者・バルーさんに手伝ってもらって、放棄畑にユーカリを植えます。



何も知らなかった私が、苗木を育てられるようになりました。

候補者 2022

ファナ地域の深刻な灌木林の減少を背景に希望者も増え、2022年は候補者が大幅に増えて20名を越しました。この中には女性が5名選ばれています。他村の実践者との交流などで、女性が村を離れることは難しいという制約はあります。ですが、女性の好むバオバブなどは床播き苗が可能で、育成も容易なことから、女性版の「新実践者」も育てていければと考えています。



菜園のためにきちんと柵がある女性も候補者に

12月には、これまで彼らが育ててきた樹木の管理状況や里山の状況(柵などの状態)などを評価して、2022年の5名の「新実践者」を選抜します。



改良種の接ぎ木を学びたいという候補者も…

実践者が育てる在来種図鑑

トロ — <i>Ficus capensis</i> . (クワ科)	ゴニ — アフリカローズウッド <i>Pterocarpus erinaceus</i> . (マメ科)	セベ — アフリカオウギヤシ <i>Borassus aethiopicum</i> . (ヤシ科)	イリバ — ソーセージノキ <i>Kigelia Africana</i> . (ノウゼンカズラ科)	ゴムイリ — アカシア・セネガル <i>Acacia senegal</i> . (マメ科)	スンスン — アフリカンカスターアップル <i>Annona senegalensis</i> .? (パンレイシ科)
					
葉： 飼料 実： 飼料 樹皮： 薬用 (解熱剤)	葉： 飼料 幹： 木工材	葉： 薬用 〔疲労回復〕 実： 食用 幹： 建材	葉： 食用 〔コーヒーの代用〕 実： 薬用 〔腸の病気〕	樹脂： 化粧品 保存料 〔アラビアゴム〕	葉： 薬用 実： 食用
コロコロ — <i>Pericopsis laxiflora</i> . (マメ科)	ゲケ — <i>Maytenus senegalensis</i> . (ニシキギ科)	バロ — <i>Nauclea latifolia</i> . (アカネ科)	ペクー — <i>Lannea microcarpa</i> . (ウルシ科)	ンテゲ — <i>Cordia myxa</i> . (ムラサキ科)	実践者たちは、早く生長するユーカリだけでなく、伝統薬や家畜の飼料などにもなる有用な在来種の育成も始めています。 中には苗木を作って、サヘルの森が買い取って配布しているものもあります。
					
葉： 飼料 薬用 (解熱剤) 幹： 建材	葉： 薬用 〔虫歯〕	葉： 薬用 根： 薬用 〔解熱剤〕 実： 食用	葉： 飼料 樹皮： 薬用 〔下痢〕 実： 食用	葉： 飼料 薬用 〔解熱剤〕 実： 食用	

マリ人スタッフの工夫



昨年、石組みの上手にチャンガラの直播をしたところ、石組みに溜まった土砂で発芽できませんでした。今年、その反省から上のように石組みの下手に直播して、見事たくさんのチャンガラの発芽をさせました。



『魚が湧き出た』

スタッフのトラオレは立ち寄ったカソマブグー村のブルー・ジャラのところで昼食をごちそうになった。その時、この地域では珍しい、燻製でない新鮮な魚が入ったソースをごちそうになった。

「この魚はどこで手に入れたんだい？」と聞くと「魚が湧き出てきたんだ」という。

昨日、かなりの強い雨が降った。するとちょうどサヘルの森がアリ塚植林をしていた旧試験地の北から隣村のタンバブグーにかけての畑やジーシラにテラピアやナマズがなどの魚が大量に散乱していたのだという。瞬く間に魚のニュースは隣村に駆け巡り、カソマブグーを初めとする隣村の4カ村の村人たちがバケツを片手に集まった。

実のところ、これらの魚たちは、幹線道路沿いの分譲地に新設された養殖池から逃げ出したものだった。昨日の大雨で、養殖池の水槽の土手が決壊し、下流の畑やジーシラに大量の水と共に魚が流れ出してしまったのだという。養殖池の所有者にとっては災難であったが、村人たちにとっては願ってもないごちそうとなったのだ。



分譲地の養殖池

『土地分譲の恩恵』

ファナ地域の土地の分譲はこれまで幹線道路沿いの土地に限られてきたが、ここ数年は幹線道路からの枝道沿いの土地にも入ってくるようになった。特に枝道を入っていくと、舗装はされていない上に、灌木を縫って走っているの、とても通りにくい。そのため、枝道沿いの土地を購入した土地の所有者は幹線道路から自分の土地までの道をブルドーザーで作ることにした。

その結果、灌木林の間をまっすぐで幅広い道が通ることになった。ついでにこの所有者はカソマブグー村までこの広い道を通してくれた。土地の分譲は、村人にとって自分たちが使うことのできない灌木林が増えるだけだったが、思わぬ恩恵を得ることとなった。



土地所有者による枝道の道路新設

『薪採りはブルの脇で』

分譲地を購入したバマコ住民は、その資金力を活かし、先の養殖池や耕作地など、灌木林を切り開いて開発することが多い。その際に大型のブルドーザーを導入して灌木を根こそぎ掘り起こす。ブルドーザーが通った後は大量の灌木の枝や根が発生する。この枝や根を薪炭材にしようと近くの村の女性たちが集まってくる。

これまでオノを片手に村から少し離れた灌木林から薪炭材を切り出していたが、今では灌木林を切り開くブルドーザーの脇で、労せず拾ってこれるようになった。さながら牛犁が畑を耕した後、出てきた土の中の虫をついばむ野鳥のようだ。

灌木林は一度伐っても、時を置けばまた生長し、再び材を得ることができる。しかしこの薪採りは、根まで掘り取られるので、これ一回きりだ。簡単に薪採りができる分、灌木が消滅してしまうのは、何とも皮肉なものだ。



ブルドーザーの脇に陣取る女性たち

●サヘルスタディーツアーの中止

11月19日(土)に予定されていた「サヘルスタディーツアー」は担当者の都合により中止となりました。楽しみにしていた皆さまには大変申し訳ありません。来年のスタディーツアーにつきましては、今後実施の可否を含めて検討していきます。

●サヘル定例活動

12/17(土)「調布から三鷹の仙川をさかのぼる」
京王線「仙川」駅改札10:30集合

*定例活動の催行の連絡は、HP等で行っています。参加ご希望の方は、事前に電話またはメールで申し込みください。

Information

募金・カンパにご協力下さい

日頃からサヘルの森の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

マリ国内は未だ治安が安定せず、今年、日本人の派遣ができたものの、ファナの現場には行くことができませんでした。

しかし、マリ人スタッフを初め、実践者や多くの協力者によって活動は続けられています。彼らの生活を守っていく活動に、ご支援いただけますよう、お願いいたします。

会員募集中

サヘルの森に入会されますと、年数回、機関紙『サヘル』のほか、報告会等のお知らせが届きます。

一般会費 年 5,000円

維持会費 年 20,000円

サハラ砂漠南縁・サヘル地域での里山再生活動を継続的に支援いただくためにも、ぜひご入会下さい。

募金・入会のお申し込みは…

振込用紙に

- ①住所
- ②氏名
- ③電話番号
- ④送金内訳(会費、募金など)
- ⑤領収書の要不要

を明記の上、郵便振替で下記口座にお振込みください。

【郵便振替口座】

00170-6-115054

サヘルの森

特定非営利活動法人 サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3 アーベイン平本 403
TEL:042-721-1601(留守電対応) FAX:廃止しました
ホームページ: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>
E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org

機関紙『サヘル』ファナ特集号

発行:2022年11月1日
発行人:高津 佳史
編集:榎本 肇